

# 平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

## かすみがうら市 解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	かすみがうら市の花は紫陽花（アジサイ）です。小さな花が一つに集まり、さまざまな土地に順応して大きな花を咲かせる姿に、市民の和と繁栄への願いを込めています。	4
2	市で生産された農林水産物または加工品の中で、一定の条件をクリアしたものを市の推奨品として「湖山（こざん）の宝」というブランドに認定しています。	1
3	民家園は江戸時代（18世紀後半）の建築と伝えられる茅葺（かやぶき）民家、福田家住宅・福田家板倉を移築したものです。農耕用の馬を飼っていた「馬屋（まや）」が母屋に繋がった「曲家（まがりや）」と呼ばれるつくりをしています。	3
4	かすみがうら市では「いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会」デモンストレーション種目として、金属のボールを投げてチームの得点を競う、フランス発祥の「ペタンク」と、「ふれあいグラウンドゴルフ」を開催します。	4
5	平三坊（へいさんぼう）は、牛渡地区の鹿島神社で「お田植祭り」とも呼ばれる祭事です。始まりは農夫の平佐（へいさ）とその女房（にょうぼう）が田植え行事を面白おかしく演出したことから「平佐女房」が略され「へいさんぼう」になったとされます。	2
6	かすみがうら市は、「現存する遺跡の数が茨城県内で最も多い市町村」であり、788ヶ所もの遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）が確認されています。	1
7	乗海は、鎌倉時代に活躍した真言宗の僧侶で、筑波山周辺で布教活動を行っていました。彼が閑居山（かんきょさん）の中腹に突出した巨岩に百体以上の仏像を彫ったと伝わるものが百体磨崖仏（ひゃくたいまがいがいぶつ）です。百体観音とも呼ばれます。	2
8	地元産ブルーベリーを使用した甘酸っぱい手摘み酒「霞恋（かれん）」や、地元産さつまいも「紅あずま」を使用した本格やきいも焼酎「湖山（こざん）」が市の推奨品として登録されています。	2
9	かすみがうら市志筑（しづく）地区の水田の真ん中にある「師付の田井（しづくのたい）」は、万葉集にも詠まれた井戸ですが、現在もこんこんと水が湧き出ています。	3
10	かすみがうら市出身の山本鹿州（やまもとろくしゅう）は、循環障害に基づく上肢障害（上肢のしびれ感、脱力感、冷感など）を伴い、脈を判別することが困難になる「大動脈炎症候群」別号『脈なし病』を世界で初めて臨床報告しました。	1
11	レンコンは、漢字では蓮根と書きますが、蓮（はす）の地下茎（ちかけい）です。地下の泥の中で成長するレンコンの、節のところから出るひげのようなものが根なのです。	4
12	竹内百太郎（たけうちひゃくたろう）は、かすみがうら市安食出身で、弘道館等で水戸学を学び、江戸で砲術や剣術も学んだ秀才でした。ブックレット『かすみがうら市の先人シリーズ 竹内百太郎と伊東甲子太郎～つながる私たち～』でも紹介しています。	2
13	鯉の身を削ぎ切りの「刺身」にしたあと、冷水にくぐらせて、身を引き締めたものが鯉のあらいです。コリコリとした触感が病みつきになります。	3
14	1834年（天保5年）に生まれた折本良平は、明治初期の霞ヶ浦漁業において、少人数でも漁獲を上げるために「帆引き船」を開発し、周辺地域の漁業の活性化に貢献しました。	2
15	かすみがうら市の歩崎を起点に名所やグルメ、体験をしながらサイクリングを楽しむ「かすみがうらライドクエスト」は、その道順を案内する看板がユニークなことでも知られています。	1
16	伊東甲子太郎は、かすみがうら市志筑地区出身で江戸に上って北辰一刀流を学びました。京都で新選組に入ってから、特別職の参謀となりました。	4
17	富士見塚古墳は、西に筑波山、北と東に霞ヶ浦、南に菱木（ひしき）川の低地を臨む景勝の地に築造された全長80メートル、高さ11.5メートルの前方後円墳です。周囲には数基の円墳があり、現在では富士見塚古墳公園として市民の憩いの場となっています。	4
18	Eボートと呼ばれる勇壮な11人乗りの大型カヌー（インフレーターブルカヤック）によるレースは、熱戦が繰り広げられる「あゆみ祭り」の人気プログラムです。	2
19	霞ヶ浦は、かつては内海となっていました。この内海で漁業や水運業を営む「海夫（かいふ）」と呼ばれる人がたくさんいたことが様々な記録に残っています。	3
20	かすみがうら市では子育て世代向けアプリとして「かすみっ湖アプリ」や、子育て支援ウェブサイト「かすみっ湖」を提供しています。また、情報発信の手段として「かすみがうら市行政アプリ」なども積極的に活用しています。	1
21	かすみがうら市歩崎にある、かすみがうら市水族館では数多くの霞ヶ浦に生息する淡水魚などを展示していますが、シンボルマークになっているのは「オイカワ」という身近なコイ科の淡水魚です。	4
22	飯田吉英（いいだよしふさ）は、かすみがうら市生まれ、「食肉加工の先覚者」として知られた人物です。1918年（大正7年）、カーン・ヤーンらドイツ人から伝統のソーセージ作りを教わり、日本で始めて本格的なソーセージを作ったとされています。その他にも、食肉加工分野で多大な功績を残しました。	2
23	毎年11月3日に開催される「かすみがうら祭」では、会場付近に源義家が四万の兵を休ませたという伝説があることから、巨大な「四万騎（しまき）鍋」を用意し、地元の食材を使ったけんちん汁が2,500食もふるまわれています。	3
24	「出島の椎（しい）」と呼ばれる、かすみがうら市下軽部にある長福寺の山門右側に茂るスタジイは、高さ約15メートル、幹の周囲約7メートル、樹齢約700年になる巨木です。	4
25	市の推奨品ロールケーキ「かすみロール」に使われているのは、かすみがうら市産の新鮮な卵と、白ワインと赤ワインで煮込んでスライスした2色のレンコンです。チーズ入り生クリームによるさっぱりとした味わいが特徴です。	3